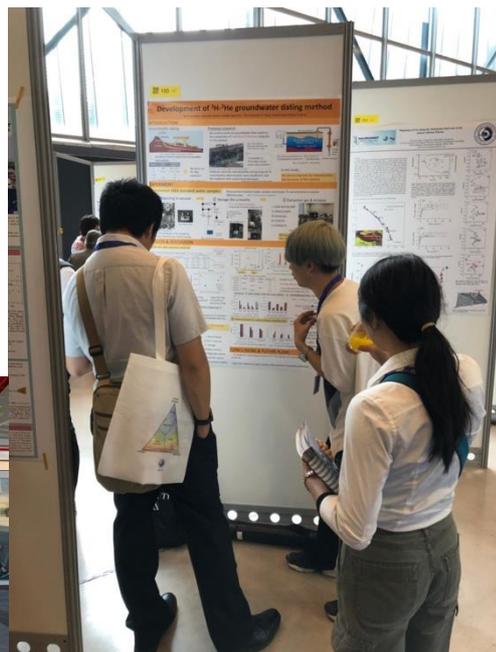


Goldschmidt 国際会議 2019 参加報告書

関連基礎科学系修士2年 野俣直樹

「修士・博士課程学生のための国際研究集会渡航助成」の支援を受け、Goldschmidt 国際会議 2019 及び、これに付随するワークショップ DINGUE VI (Development In Noble Gas Understanding and Expertise) に参加しました。Goldschmidt 国際会議は、地球・宇宙化学の分野において世界最大規模の総合的な国際研究集会であり、地球内部・地球表層の組成と物質循環、気候変動、環境汚染、生物地球化学、宇宙物質と地球の形成など様々な分野の研究者が世界各地から毎年参加しています。本年度はスペインのバルセロナにおいて8月18日～23日の5日間開催されました。また本国際会議に付随するワークショップ DINGUE VI は、世界各地の希ガス地球・宇宙化学を専門としている研究者たちが2日間に渡り研究発表と討論を行うもので本年度は8月16日～17日の2日間に渡り、スイスのETH(チューリッヒ工科大



学) で行われました。私は「 Development of ^3H - ^3He groundwater dating method 」という題目で国際会議及びワークショップ、共にポスター発表を行いました。地下水中に溶け込んでいるヘリウムガスを測定することで「その地下水が何年間地中に滞留していたか」という地下水の滞留年代に関する情報を得る手法を開発し、その発表を行いました。滞留年代は非常に大切な情報ではあるのですが、正確に年代を決定することは非常に困難です。この手法を確立することで世界の地下水をより有効活用できるため、様々な国の方から関心を持っていただくことができました。そして多くの方との議論を通じて、手法の精度をより高めるための助言や今後の研究の方針となる意見をいただくことができました。また、スイスの ETH では討論だけでなく研究室の見学に行き、国内では見ることはできない最先端の分析装置を直接見ることができ、そのメカニズムを学ぶことができました。現在は国際会議で議論した内容を反映し、手法の精度向上のための実験や修士論文の執筆に取り組んでいます。